



学校アウトリーチ



～芸術を子どもたちのもとへ～

武豊町のアウトリーチは、芸術との出会いを学校へ届ける活動です。

学校でプロの演奏家の息づかいや音の震えを感じる時間。

その経験が子どもたちの心に残り、未来に芸術への扉を

開くきっかけとなることを願っています。



間近で感じる、ヴァイオリンとピアノの響き

2026年度の学校アウトリーチは、ヴァイオリン奏者の早稲田桜子さん、ピアノ奏者の早稲田眞理さんをお迎えして開催しました。

桜さんは東京藝術大学音楽学部を卒業後、国内外で演奏活動が続けるとともに、学校や保育園、病院などで数多くのアウトリーチを行ってこられた経験豊かな演奏家です。今回は、姉でピアノ奏者の眞理さんとのデュオで、子どもたちに音楽の楽しさをわかりやすく届けてくださいました。

大きな拍手に迎えられてお二人が教室に入ると、子どもたちは期待いっぱいの笑顔で見つめていました。桜さんは「授業が終わる頃には、ヴァイオリンやピアノって楽しかったな、好きだなと思ってくれたら嬉しいです」と、子どもたちに優しく語りかけました。

最初の曲は、エルガー作曲の「愛の挨拶」。のびやかで美しいヴァイオリンの音色に、子どもたちは静かに耳を傾けていました。続くドヴォルザーク作曲の「ユーモレスク」では、作曲家が鉄道好きだったというエピソードも紹介され、音楽の背景にも楽しく触れる時間となりました。

また、ヴァイオリンの仕組みについても、実物を見ながら学びました。楽器に使われている木の種類や、弓の毛が馬のしっぽの毛でできていることなど、普段なかなか知ることのできない楽器の秘密に、子どもたちは興味深そうに見入っていました。桜さんが弓の毛を見せてくださると、教室からは驚きの声が上がりました。

クライスラー作曲の「中国の太鼓」では、太鼓のようなリズムと華やかなメロディーを楽しみました。映画『アラジン』より「A Whole New World」では、桜さんが子どもたちの近くまで歩み寄り、間近でヴァイオリンの音色を届けてくださいました。

最後は、ヴァイオリンとピアノの演奏に合わせて、子どもたちも一緒に「ありがとうの花」を合奏しました。また、武豊小学校ではリコーダーで「エーデルワイス」を合奏しました。

子どもたちのまっすぐな音が音楽室に響き、会場全体が温かな雰囲気になりました。

子どもたちにとって、間近で生の演奏に触れ、楽器の仕組みを知り、プロのアーティストと一緒に音楽を楽しむ貴重な時間となりました。



【主なプログラム】

- ・愛の挨拶／エルガー
- ・ユーモレスク／ドヴォルザーク
- ・中国の太鼓／クライスラー
- ・A Whole New World／映画『アラジン』より
- ・カノン／パッヘルベル
- ・ありがとうの花／合唱(富貴小学校・緑丘小学校・富貴小学校)
- エーデルワイス／リコーダー(武豊小学校)